

精華町人口ビジョン

平成27年10月

精華町

はじめに

わが国の総人口は、平成 20（2008）年から減少局面に転じており、減少のスピードが今後加速度的に高まっていくと予想されています。また、人口の構成では、少子化が進行しながら高齢化が急激に進行する状況にあります。人口減少が進み、少子高齢化が進行することにより、生産年齢人口が減少し、経済規模の縮小や社会保障費の増加など、さまざまな分野に深刻な影響を及ぼすことになります。

このような状況の中、政府は、地方の成長力を取り戻し、人口減少を克服するため、まち・ひと・しごと創生本部を設置し、平成 26（2014）年 12 月には、国と地方が総力を挙げて取り組む上での指針となる「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」および、長期ビジョンを実現するための今後 5 か年の目標や施策の基本的な方向、具体的な施策を提示する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を閣議決定し、まち・ひと・しごとの創生に総合的に取り組む方針を示しています。

本町においても、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」の考え方を踏まえ、本町の人口の現状を分析し、人口に関する認識を町民と共有し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示す「精華町人口ビジョン」を策定します。

目次

1	まとめ	3
	(1) 計画策定の背景及び趣旨	3
	①計画策定の背景	3
	②本計画の趣旨	3
	(2) 分析結果のまとめ	3
	①人口の現状のまとめ	3
	②人口推計シミュレーション	4
2	精華町の人口の現状	5
	(1) 人口の推移	5
	(2) 人口の自然増減の推移	6
	(3) 合計特出生率の推移	7
	(4) 有配偶率の推移	8
	(5) 人口の社会増減の推移	9
	(6) 年齢階級別の人口移動の状況	10
	(7) 年齢階級別・男女別の人口移動の状況	11
	(8) 人口の推移に与えてきた自然増減と社会増減の影響	13
	(9) 産業別就業者数	14
3	精華町の人口の将来推計と分析	15
	(1) 人口推計にあたっての仮定	15
	①出生率	15
	②移動率	15
	(2) 独自推計の実施	18
4	精華町の将来展望	19
	(1) 本町人口の将来展望	19
	(2) 目標人口達成のためのまちづくりの方向性	21

1 まとめ

(1) 計画策定の背景及び趣旨

①計画策定の背景

- ・ 「人口減少と地域経済縮小の克服」を目的として、平成 26 年 12 月に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が政府により閣議決定されました。その後、まち・ひと・しごと創生法（平成 26 年法律第 136 号）第 8 条の規定に基づき、政府は各地方自治体に対して平成 27 年度中に「地方人口ビジョン」及び「地方版総合戦略」の策定を要請しています。
- ・ 地方への新たな人の流れを生み出し、その好循環を支える“まち”に活力を取り戻し、人々が安心して生活を営み、子どもを産み育てられる社会環境を作り出すことを目的に、精華町としても様々な政策を展開する必要があります。

②本計画の趣旨

- ・ 本計画では、各種統計データ等を活用した本町の現状分析やアンケート調査等による意向把握等基礎調査を実施するとともに、当該基礎調査の結果を基に、人口増減の要因や課題を明確にし、本町の将来人口推計、将来の展望及びそれを実現するための基本目標の設定などを行います。

(2) 分析結果のまとめ

①精華町における人口の現状のまとめ

■ 総人口の推移

- 総人口は 1980 年から現在まで増加し続けていますが、2005 年以降は増加スピードが鈍化しています。
- 国立社会保障・人口問題研究所の推計データでは、今後、総人口は 2025 年まで微増し、その後減少すると見込まれています（本町が算出した独自推計は後述）。
- また、同データでは、生産年齢人口は 2005 年以降、横ばいから微減傾向になると見込まれており、老年人口は 2040 年まで増加し続けた後、維持・微減傾向になります。年少人口は 2006 年をピークとして減少しており、2015 年以降は老年人口を下回ると見込まれています。
- ベッドタウンの特徴である昼間人口が少なく、全国的にも下位（約 1,900 団体・地域中 1,866 位）に位置する。

■ 自然増減（出生及び死亡）

- 平成 7(1995)年以降、本町の人口は出生数が死亡数を上回っており、自然

増の状態が続いています。近年、死亡数は微増、出生数は微減傾向にあります。

- 本町の合計特殊出生率は、1998～2002年に一度上昇し、その後下降傾向にあります。

※合計特殊出生率は、「15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性がその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当します。

- 女性と比較して、男性の方が全体的に有配偶率が低くなっています。

■ 社会増減（転入及び転出）

- 本町への転入数が転出数を上回るため、人口の社会増が続いていましたが、2007年以降は転入数と転出数との差が縮小しています。
- 年齢階級別の人口の移動状況では、30～44歳の層とその子供と考えられる0～9歳の層では、ともに転入超過になっています。一方、15～24歳の層では転出超過になっています。
- 男性の転入元は、20～29歳と30～39歳の層ともに、奈良県や京都府の近隣市町村が多く、女性の転入元も男性と同様の傾向です。
- 男性の転出先は近畿圏が大半を占めるものの、20～29歳の層では東京都への転出も目立ちます。女性の転出先は、男性の傾向とは異なり東京都への転出は限定的で、近隣市町村への転出が上位となっています。

②精華町における人口推計シミュレーション

■ 総人口の推計

- 総人口の本町が算出した独自推計値は次のとおりです。出生率を中位・高位①・高位②で3つ、移動率を中位・高位で2つ仮定し、これらを組み合わせ合わせた合計6つの推計を行いました。

パターン	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
中位（移動）・中位（出生）	35,626	36,543	37,037	37,222	37,203	36,951	36,408	35,649	34,647	33,325	31,762
中位（移動）・高位①（出生）	35,626	36,789	37,526	37,948	38,459	38,754	39,055	39,231	39,164	38,830	38,350
中位（移動）・高位②（出生）	35,626	36,789	37,526	37,948	38,192	38,196	37,919	37,469	36,799	35,824	34,640
高位（移動）・中位（出生）	35,626	36,543	38,823	40,880	41,076	41,069	40,758	40,236	39,444	38,272	36,795
高位（移動）・高位①（出生）	35,626	36,789	39,353	41,740	42,555	43,180	43,840	44,406	44,711	44,699	44,489
高位（移動）・高位②（出生）	35,626	36,789	39,353	41,740	42,244	42,532	42,528	42,367	41,966	41,202	40,170

※推計に関する詳細な定義は「3 精華町の人口の将来推計と分析」に記載しています。

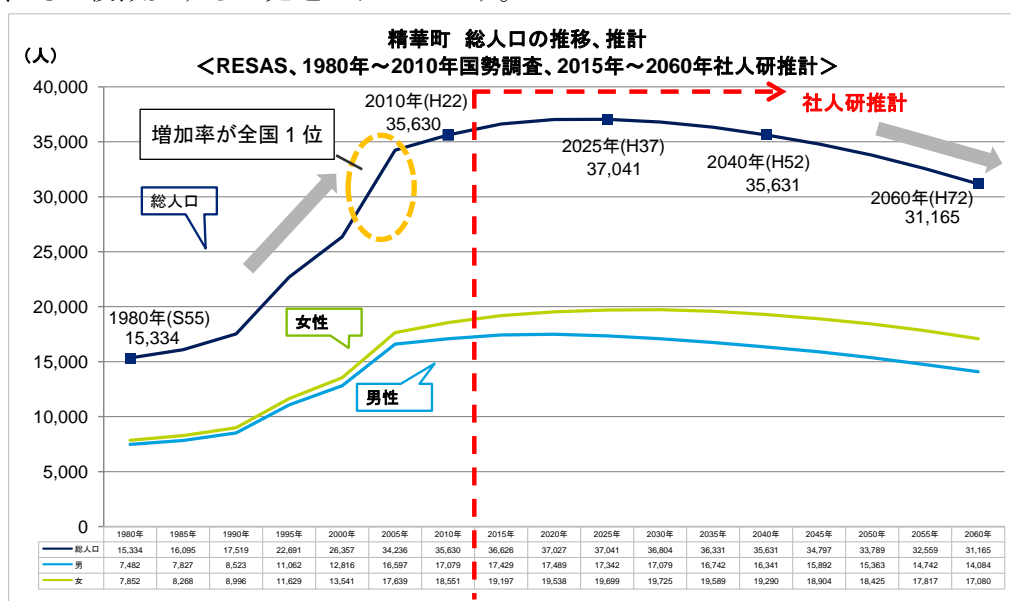
※上表の網掛けは人口のピークを示しています。

2 精華町の人口の現状

(1) 人口の推移

本町の総人口は1980年の15,334人から2010年には35,630人と30年間で約2万人増加しています。その間、平成17年国勢調査では、平成12年からの5年間の人口増加率が29.9%と全国1位の増加率を記録するなど、現在まで増加し続けていますが、2005年以降は増加のスピードが鈍化しています。

国立社会保障・人口問題研究所（社人研）が発表している『日本の地域別将来推計人口』（平成25（2013）年3月推計）によると、今後、総人口は2025年まで微増し、その後減少すると見込まれています。



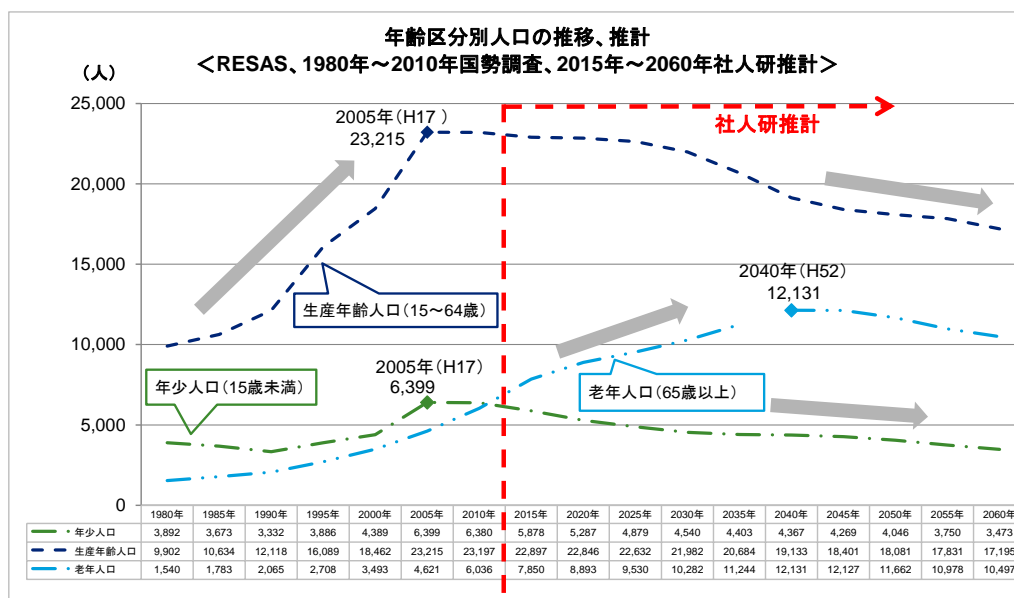
また、本町は京阪神地域のベッドタウンとしての特徴を有しており、昼間人口（昼間流入してくる人口）は少なく、昼間人口と夜間人口（当該地域に住んでいる人口）との差を示す昼夜間人口比率（（昼間人口／夜間人口）×100の数値で求められ、100より大きい場合は昼間人口が夜間人口を上回っていることを表す）を見ると、全国約1,900自治体・地域のうち、1,866位と下位であることがわかります。

山城地域市町村の昼夜間人口比率（平成22年国勢調査）

順位	市町村名	昼間人口数	夜間人口数	昼夜間人口比率(%)
15	久御山町	27,825	15,914	174.8
276	京田辺市	70,334	67,910	103.6
796	宇治田原町	9,506	9,711	97.9
1235	長岡京市	73,548	79,844	92.1
1489	宇治市	166,555	189,609	87.8
1467	大山崎町	13,336	15,121	88.2
1511	井手町	7,385	8,447	87.4

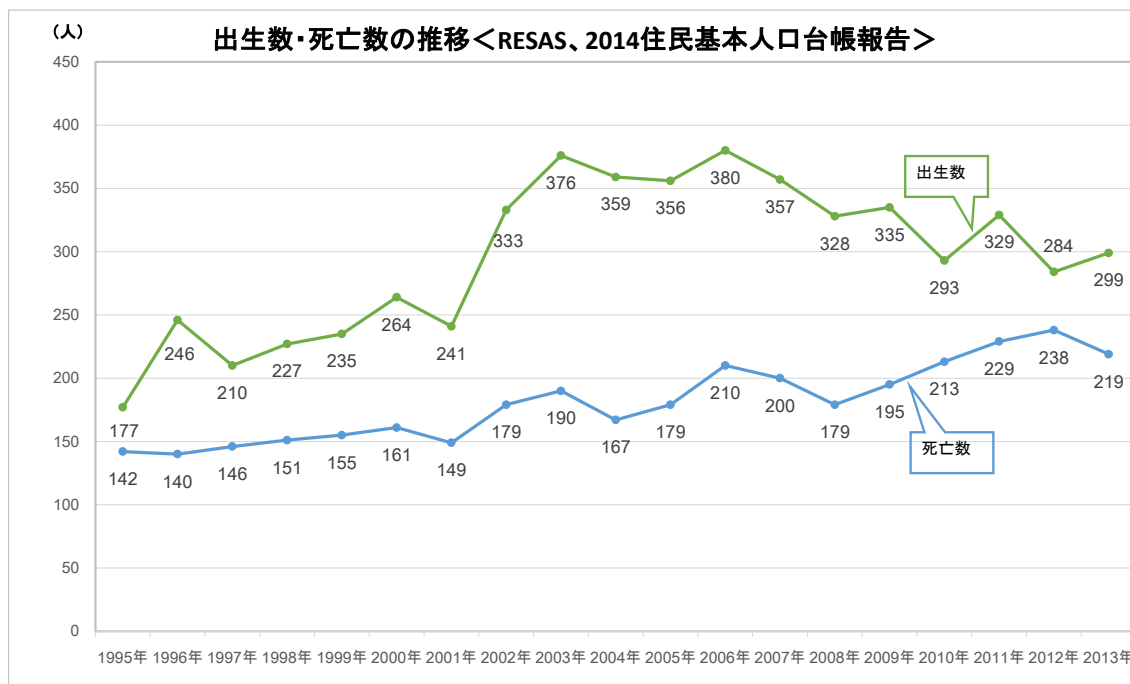
順位	市町村名	昼間人口数	夜間人口数	昼夜間人口比率(%)
1670	八幡市	62,301	74,227	83.9
1671	和束町	3,761	4,482	83.9
1741	笠置町	1,334	1,626	82.0
1777	城陽市	64,737	80,037	80.9
1815	南山城村	2,451	3,078	79.6
1825	木津川市	55,326	69,761	79.3
1845	向日市	42,533	54,328	78.3
1866	精華町	27,312	35,630	76.7

人口構成を見ると、生産年齢人口は2005年以降、横ばいから微減傾向になると見込まれており、老年人口は2040年まで増加し続けた後、維持・微減傾向になります。年少人口は2006年をピークとして減少しており、2015年以降は老年人口を下回ると見込まれています。



(2) 人口の自然増減の推移

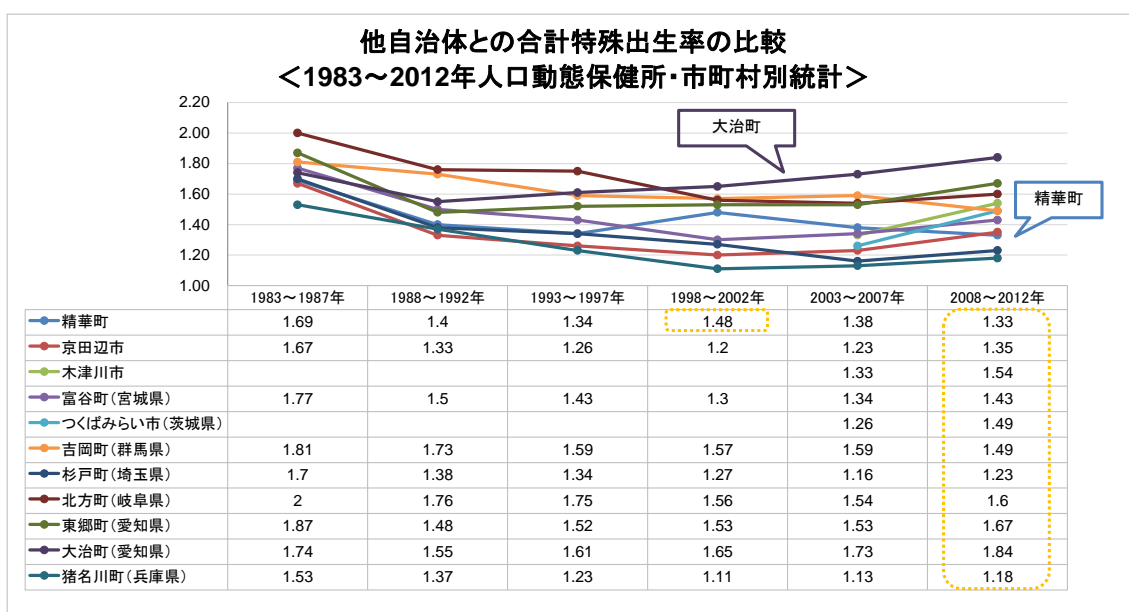
平成7(1995)年以降、本町の人口は出生数が死亡数を上回っており、自然増の状態が続いています。近年、死亡数は微増、出生数は微減傾向にあり、出生数と死亡数の差が縮まりつつあります。



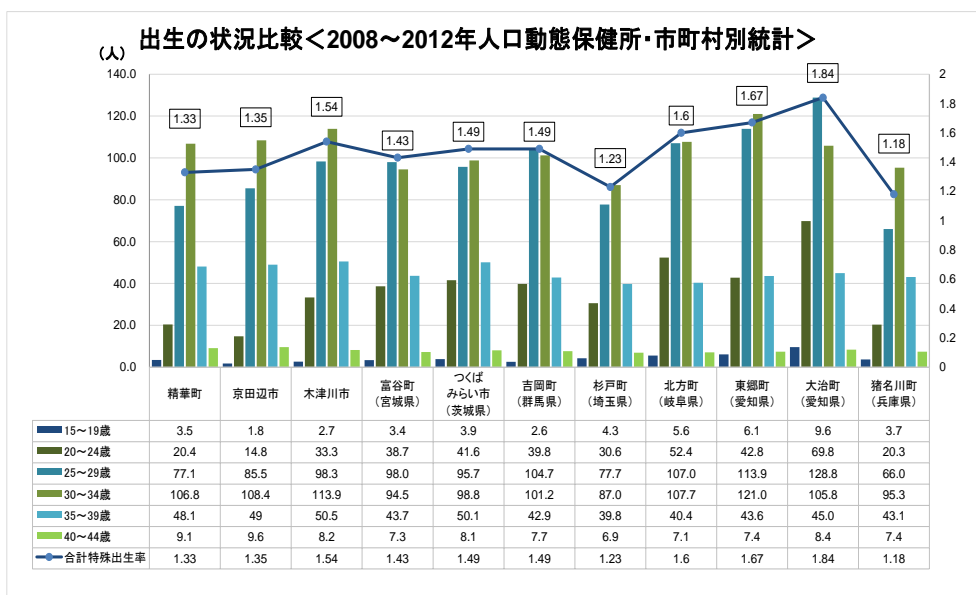
(3) 合計特殊出生率の推移

本町の合計特殊出生率は、1998～2002年に一度上昇し、その後下降傾向にあります。2008～2012年における本町の合計特殊出生率は、比較自治体の中で3番目に低い状況です。

※本町のデータを分析する上で、データを比較する10の自治体を選定しました。選定には、平成17年・平成22年の国勢調査の結果を使用しました。けいはんな学研都市の京田辺市・木津川市の2市および精華町(茨城県)・杉戸町(埼玉県)の2市町に加え、次の3つの条件に当てはまる富谷町(宮城県)・吉岡町(群馬県)・北方町(岐阜県)・東郷町(愛知県)・大治町(愛知県)・猪名川町(兵庫県)の6町を比較自治体としました。①平成17年から平成22年にかけて人口増減率が5%以上、②昼夜間人口比率が80%以下、③人口が1万人～5万人の町。



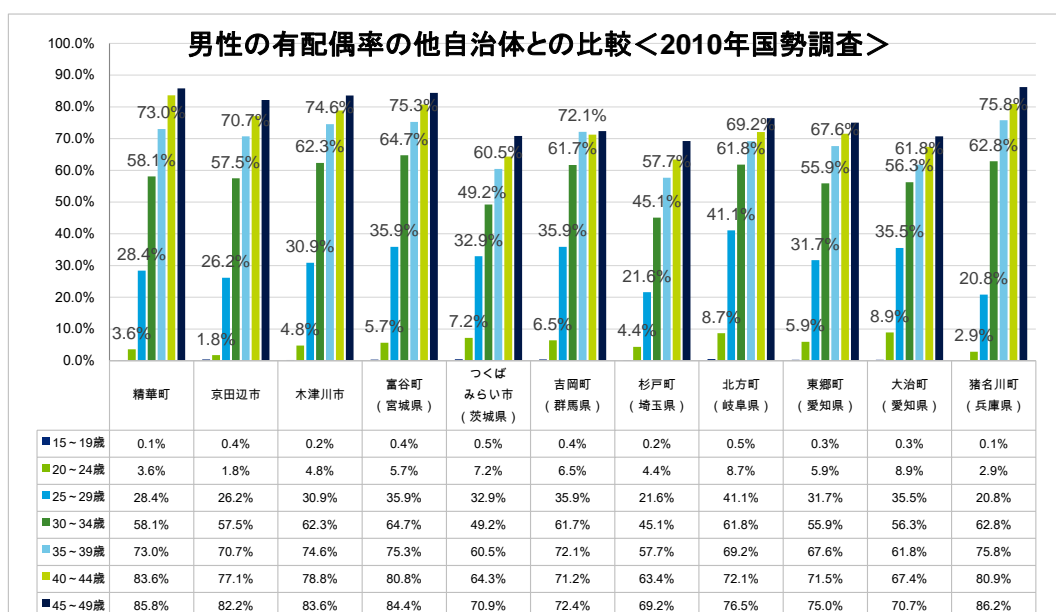
25～29歳の層における出生数は比較自治体の中で2番目に低いですが、30～34歳の層では5番目に高くなっており、年齢が上がるにつれ比較自治体並の数値に近づくことがわかります。

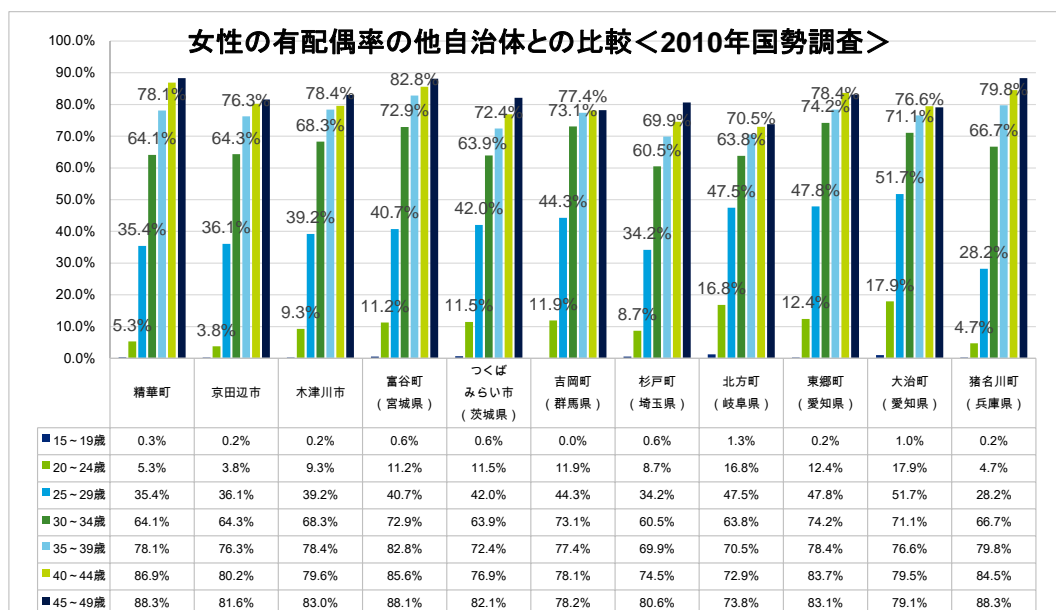


(4) 有配偶率の推移

女性と比較して、男性の方が全体的に有配偶率が低くなっています。男性の場合、40～49歳では、比較自治体の中で2番目に高い有配偶率です。

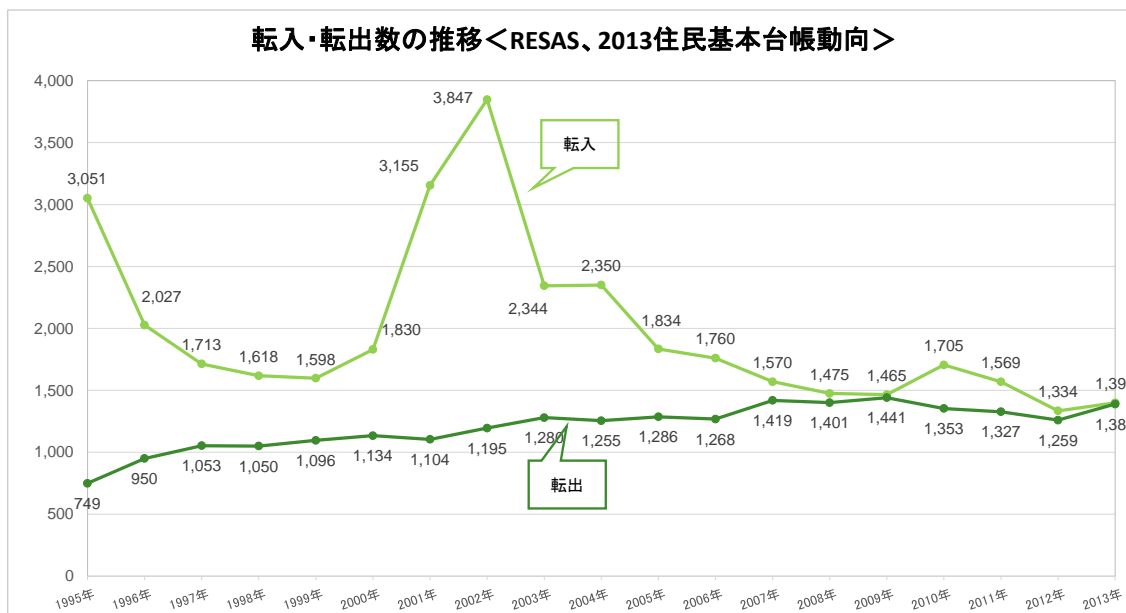
女性の場合、吉岡町や北方町、大治町と比較すると25～29歳時点での有配偶率は本町の方が低いです。35～39歳以降では本町の方が高くなっています。本町の45～49歳に着目すると、比較自治体の中で女性の有配偶率が最も高くなっています。





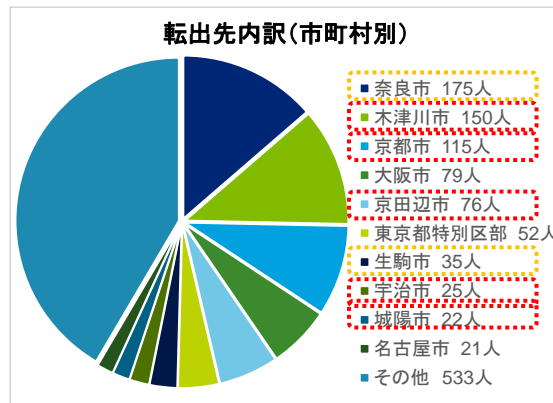
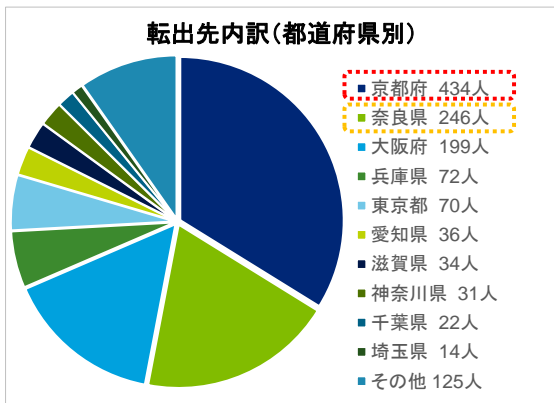
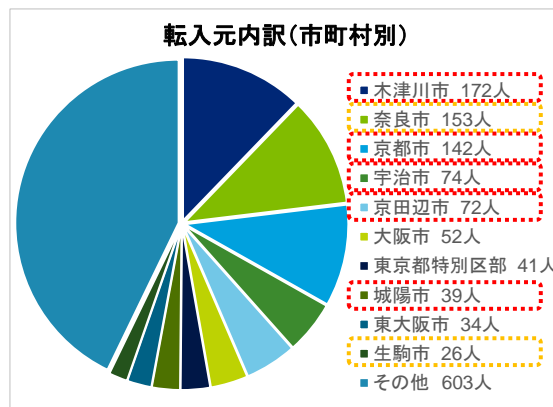
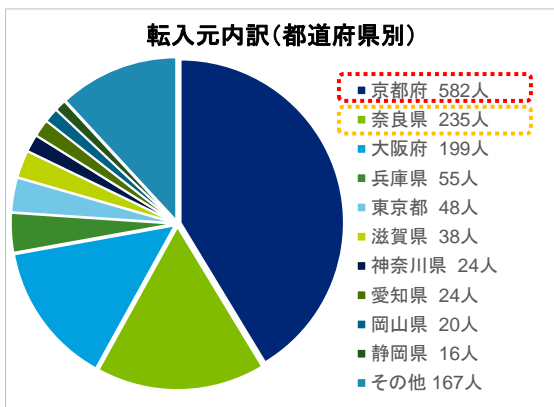
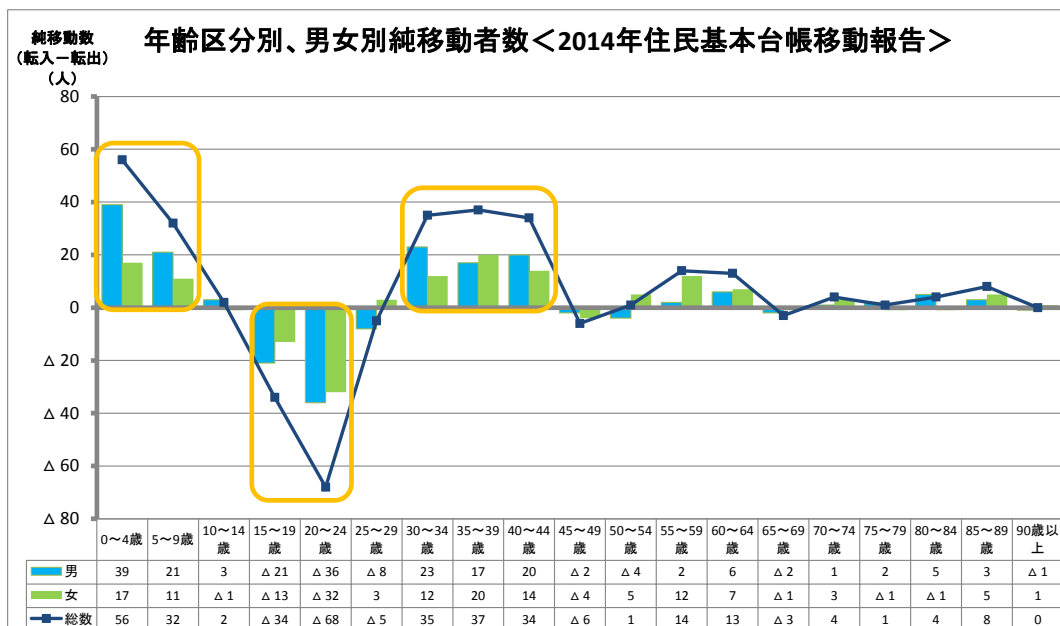
(5) 人口の社会増減の推移

本町への転入数が転出数を上回るため、人口の社会増が続いており、特に、全国1位の人口増加率を記録した2000年から2005年間の転入・転出の差は非常に大きいことがわかります。その後、2007年以降は転入数と転出数との差が縮小しており、2013年では転出・転入の差が+10人となっています。



(6) 年齢階級別の人口移動の状況

年齢階級別の人口の移動状況では、30～44歳の層とその子供と考えられる0～9歳の層では、ともに転入超過になっています。また、15～24歳の層では転出超過になっています。



(7) 年齢階級別・男女別の人口移動の状況

ア 転入の状況

男性の転入元は、20～29歳と30～39歳の層ともに、奈良市や京都府の近隣市町村が多く、女性の転入元も男性と同様の傾向です。

(男性)

	10～19歳		20～29歳		30～39歳	
第1位	木津川市	6人	木津川市	20人	奈良市	26人
第2位	岡山県	4人	京都市	16人	木津川市	23人
第3位	東京都	3人	奈良市	13人	京都市	17人
第4位	京都市	3人	京田辺市	9人	京田辺市	11人
第5位	宇治市	3人	滋賀県	8人	兵庫県	9人
第6位	奈良市	3人	大阪市	7人	大阪市	8人
第7位	岐阜県	2人	宇治市	6人	宇治市	8人
第8位	静岡県	2人	生駒市	6人	東京都	8人
第9位	枚方市	2人	東京都	5人	滋賀県	4人
第10位			福岡県	5人	愛知県	4人
	その他	16人	その他	79人	その他	66人
	総数	44人	総数	174人	総数	184人

※各都道府県での合算
※東京都は特別区部

(女性)

	10～19歳		20～29歳		30～39歳	
第1位	奈良市	5人	京都市	30人	木津川市	20人
第2位	木津川市	3人	奈良市	22人	京都市	19人
第3位	宇治市	3人	木津川市	18人	奈良市	18人
第4位	京都市	2人	京田辺市	7人	京田辺市	13人
第5位	京田辺市	2人	兵庫県	7人	宇治市	10人
第6位	兵庫県	2人	滋賀県	7人	兵庫県	9人
第7位	八幡市	2人	大阪市	6人	大阪市	9人
第8位			東京都	6人	東京都	8人
第9位			城陽市	6人	生駒市	6人
第10位			枚方市	4人	愛知県	5人
	その他	11人	その他	62人	その他	58人
	総数	30人	総数	175人	総数	175人

※各都道府県での合算
※東京都は特別区部

イ 転出の状況

男性の転出先は近畿圏が大半を占めるものの、20～29歳の層では東京都への転出が3位となっています。

女性の転出先の上位は、近隣市町村となっています。

(男性)

	10～19歳		20～29歳		30～39歳	
第1位	木津川市	7人	京都市	20人	木津川市	19人
第2位	奈良市	7人	木津川市	16人	京都市	15人
第3位	京田辺市	6人	東京都	15人	奈良市	15人
第4位	京都市	5人	奈良市	14人	大阪市	12人
第5位	兵庫県	4人	兵庫県	13人	京田辺市	11人
第6位	生駒市	3人	大阪市	12人	東京都	8人
第7位	東京都	2人	滋賀県	12人	兵庫県	7人
第8位	城陽市	2人	愛知県	10人	滋賀県	6人
第9位	神奈川県	2人	京田辺市	9人	愛知県	4人
第10位	岡山県	2人	神奈川県	6人	生駒市	4人
	その他	22人	その他	90人	その他	43人
	総数	62人	総数	217人	総数	144人

※各都道府県での合算
※東京都は特別区部

(女性)

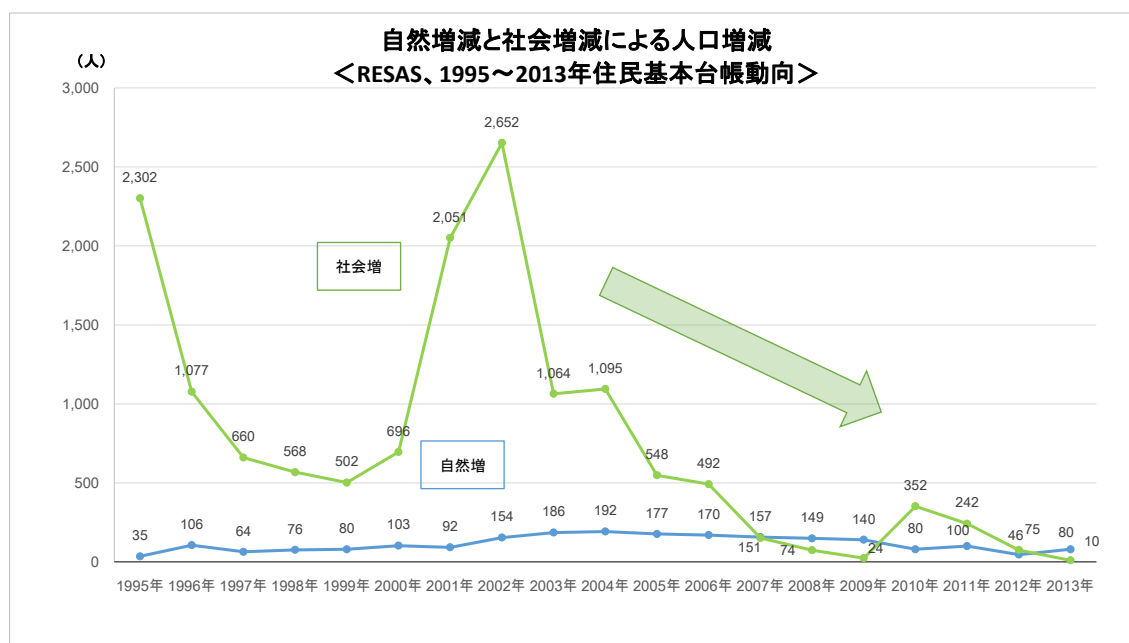
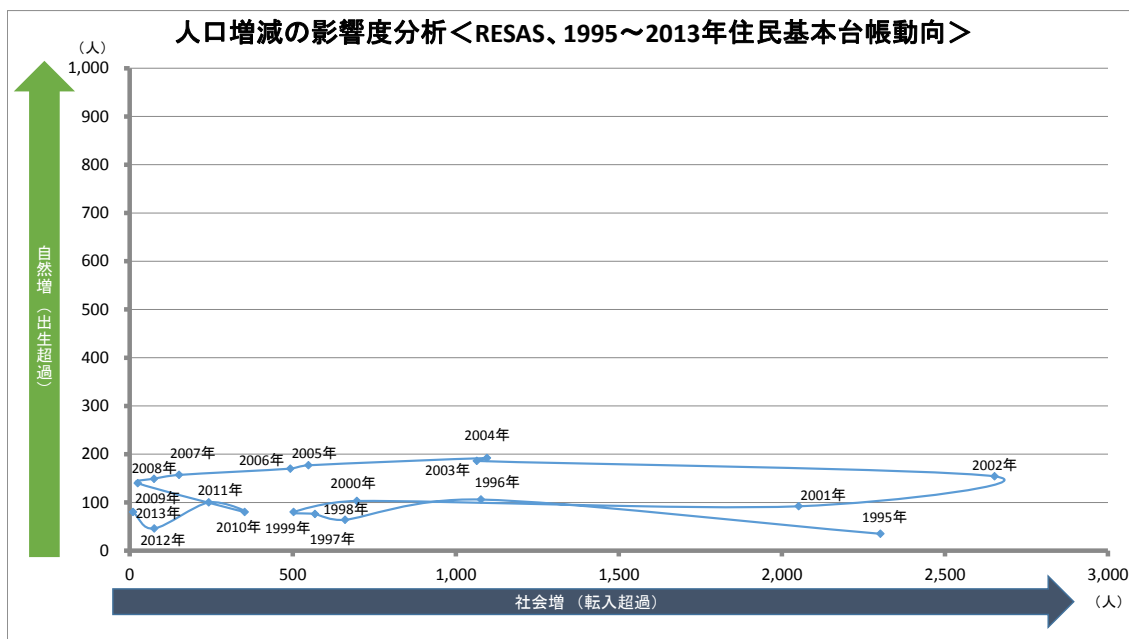
	10～19歳		20～29歳		30～39歳	
第1位	奈良市	12人	京都市	29人	木津川市	23人
第2位	木津川市	4人	大阪市	20人	奈良市	17人
第3位	京田辺市	3人	奈良市	19人	京都市	13人
第4位	愛知県	3人	木津川市	15人	大阪市	10人
第5位	京都市	2人	兵庫県	14人	兵庫県	9人
第6位	生駒市	2人	京田辺市	12人	京田辺市	7人
第7位	大阪市	2人	東京都	12人	東京都	7人
第8位			愛知県	6人	生駒市	5人
第9位			滋賀県	5人	城陽市	5人
第10位			神奈川県	5人	千葉県	4人
	その他	16人	その他	67人	その他	44人
	総数	44人	総数	204人	総数	144人

※各都道府県での合算
※東京都は特別区部

(8) 人口の推移に与えてきた自然増減と社会増減の影響

自然増に関しては、1995年から2004年にかけて出生超過の増加傾向でしたが、2004年以降は減少傾向にあります。

社会増に関しては、1995年以降転入超過が続いていましたが、近年はその増加幅が縮小してきています。



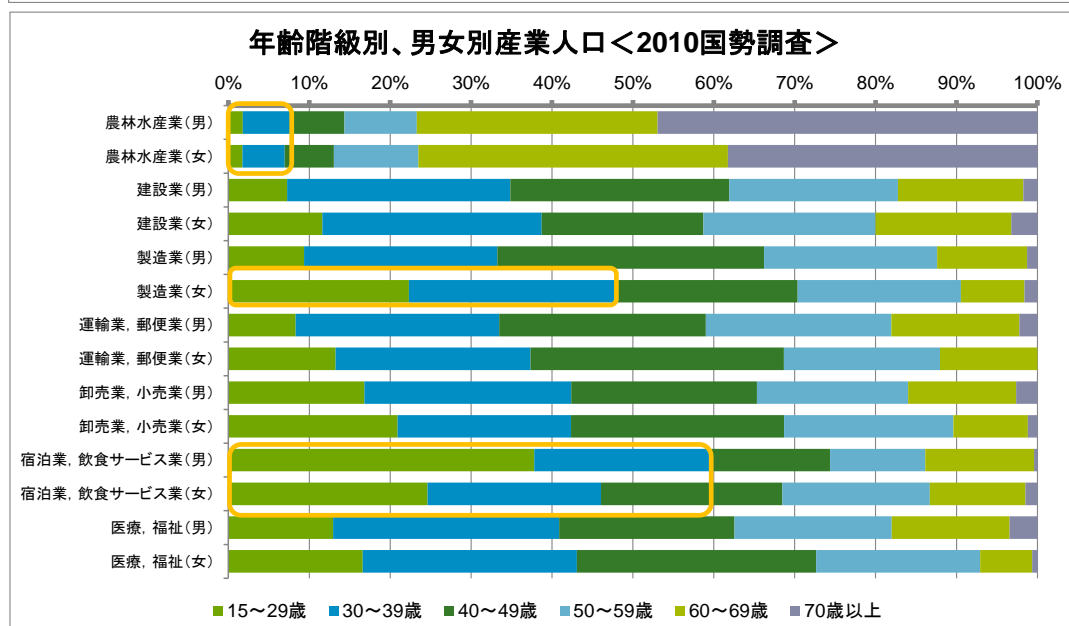
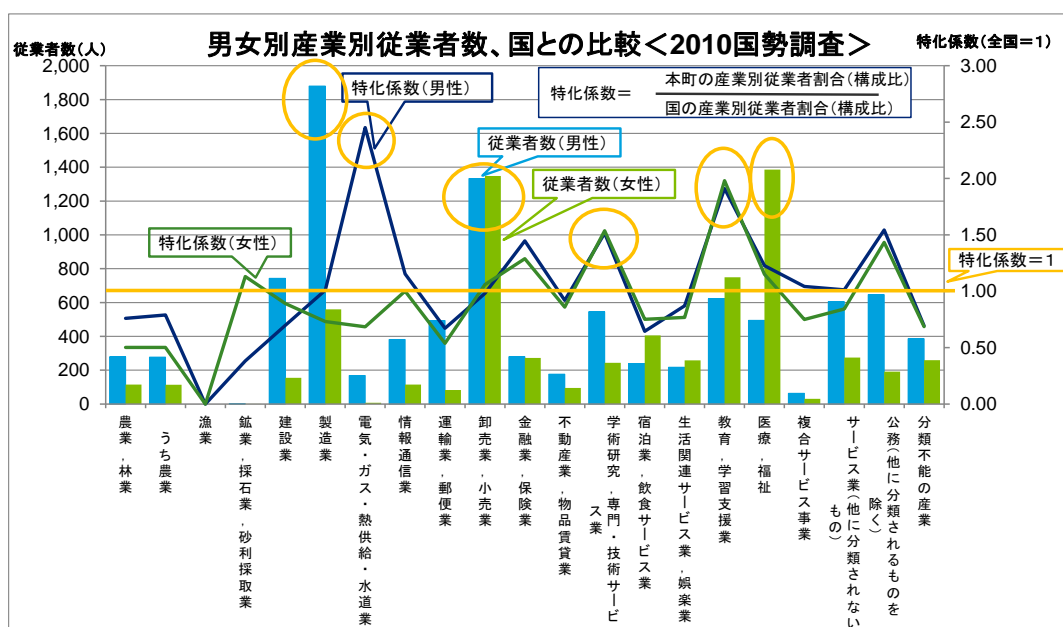
(9) 産業別就業者数

従事者数では、男性は「製造業」・「卸売業、小売業」が、女性は「卸売業、小売業」・「医療、福祉」が多くなっています。

特化係数で見ると、男性の場合「電気、ガス、熱供給、水道業」が非常に高く、男性女性ともに本町の特徴である「学术研究、専門・技術サービス業」と「教育、学習支援業」が高いことがわかります。

※特化係数とは、産業の業種構成などにおいて、その構成比を全国の構成比と比較したものです。特化係数が1に近いほど全国の水準に近く、1を超えると全国の水準より比重が高いことを示します。

年齢層では、15～39歳の層で「農林水産業」への従事者割合が男女ともに低く、「宿泊業、飲食サービス業」は高くなっており、女性の15～39歳の層では、「製造業」の従事者割合が高く、雇用の多くを吸収していることがわかります。



3 精華町の人口の将来推計と分析

(1) 人口推計にあたっての仮定

次に、将来人口に及ぼす自然増減・社会増減の影響度の分析のため、独自推計については、以下の仮定値をもとに推計を実施しました。

出生率は、直近の本町の数値、国の目指すべき数値、けいはんな学研都市の他市の数値から算出しています。

移動率は、男女ともに、どの時代においても10～20代は転出超過の傾向があり、50代以降では横ばい傾向がみられます。

①出生率

合計特殊出生率は直近数値は以下のとおりです（住民基本台帳・毎年ベース）。

中位： 直近の合計特殊出生率が継続すると仮定

高位①：国の目指すべき出生率となると仮定（なお、2025年までは木津川市の値まで上昇すると仮定）

高位②：学研都市の中で最も高い出生率の木津川市の値まで上昇すると仮定

<推計に用いた合計特殊出生率>

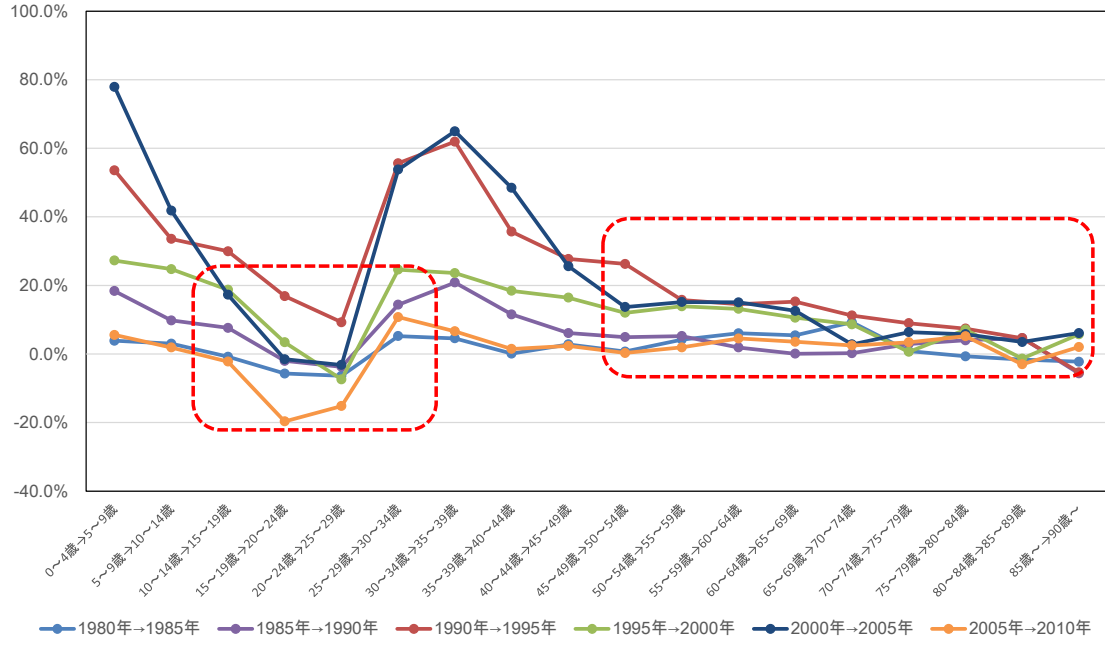
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
高位①	1.54	1.54	1.54	1.80	1.80	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07
高位②	1.54	1.54	1.54	1.54	1.54	1.54	1.54	1.54	1.54	1.54
中位	1.33	1.33	1.33	1.33	1.33	1.33	1.33	1.33	1.33	1.33

②移動率

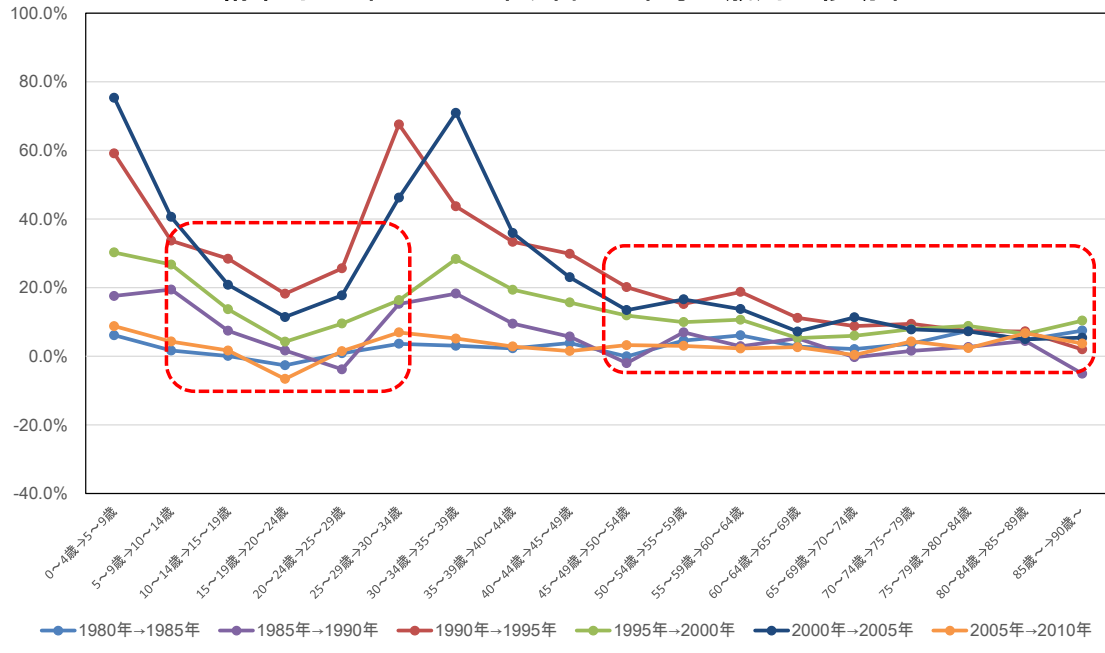
精華町の男女別、5歳別人口の1980年以降の5年ごとの移動率を表したものが以下となっています。男性では、高校卒業・大学卒業から就職するタイミングであると考えられる「15～19歳→20～24歳」の移動率について、直近の値では-20%程度となっており、転出超過であることがわかります。その一方で「30～34歳→35～39歳」「35～39歳→40～44歳」などでは、0%よりも上に位置しているため、転入傾向であることがわかります。

女性では「15～19歳→20～24歳」の移動率の転出傾向は男性ほどではなく、全年齢を通して転入傾向となっています。

精華町 男性の1980年以降の5年毎・5歳別の移動率



精華町 女性の1980年以降の5年毎・5歳別の移動率



これらの移動率分析を踏まえ、以下のような仮定のもと、独自推計を実施しました。

中位：直近移動率がこのまま続くと仮定

高位：人口の増加が著しい1990年→1995年、1995年→2000年、2000年→2005年を除いた、1980年→1985年、1985年→1990年、2005年→2010年の3つの期間のうち、若年層（50歳未満）の移動率をこの3つの期間で最も高い数値とし、それ以外は直近の移動が続くと仮定

※なお、上述の高位の移動率は2015年→2020年、2020年→2025年の2つの期間、2010年→2015年と2025年以降は中位（直近の移動率）が続くとする。

<推計に用いた移動率>

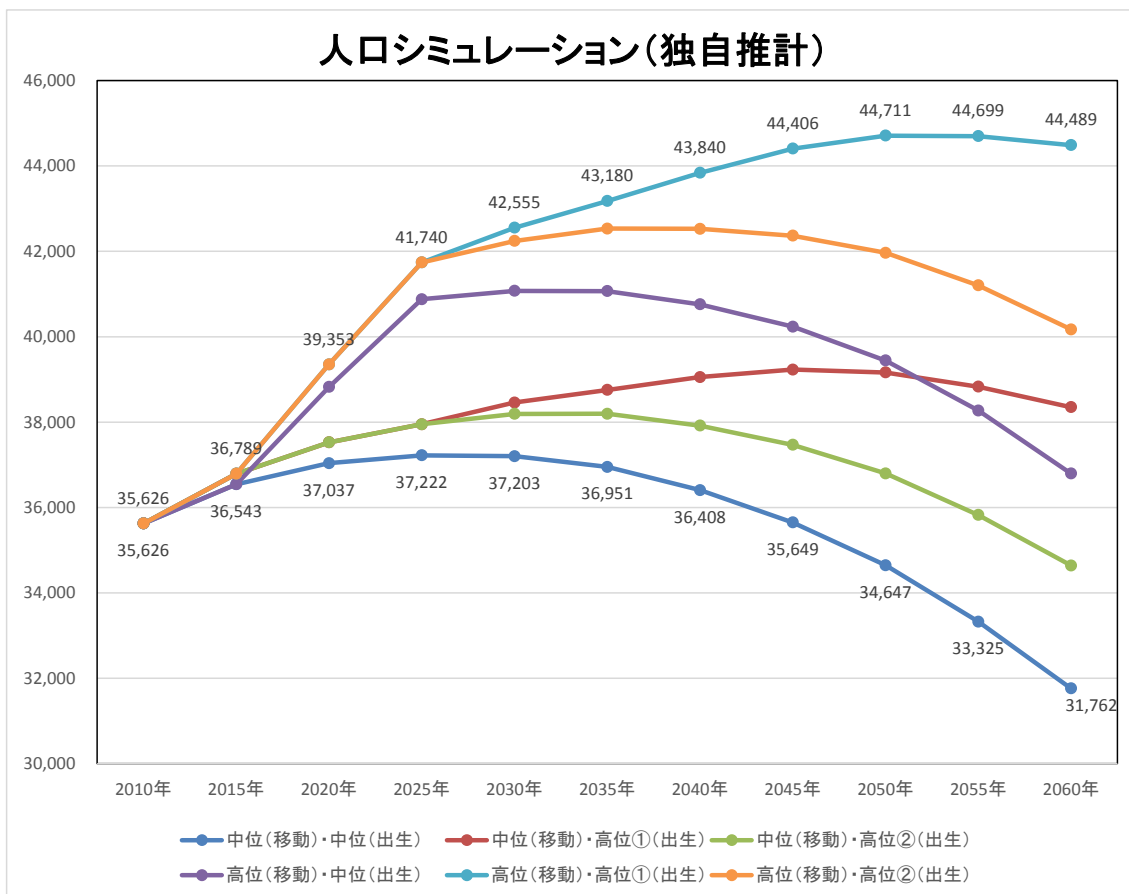
男	高位	中位	女	高位	中位
0～4歳→5～9歳	18.4%	5.6%	0～4歳→5～9歳	17.6%	8.8%
5～9歳→10～14歳	9.8%	1.9%	5～9歳→10～14歳	19.5%	4.3%
10～14歳→15～19歳	7.6%	-2.2%	10～14歳→15～19歳	7.4%	1.7%
15～19歳→20～24歳	-2.0%	-19.6%	15～19歳→20～24歳	1.7%	-6.6%
20～24歳→25～29歳	-3.7%	-15.2%	20～24歳→25～29歳	1.5%	1.5%
25～29歳→30～34歳	14.4%	10.8%	25～29歳→30～34歳	15.3%	7.0%
30～34歳→35～39歳	20.8%	6.6%	30～34歳→35～39歳	18.3%	5.2%
35～39歳→40～44歳	11.5%	1.5%	35～39歳→40～44歳	9.5%	2.9%
40～44歳→45～49歳	6.1%	2.3%	40～44歳→45～49歳	5.8%	1.5%
45～49歳→50～54歳	4.9%	0.3%	45～49歳→50～54歳	3.2%	3.2%
50～54歳→55～59歳	1.9%	1.9%	50～54歳→55～59歳	3.1%	3.1%
55～59歳→60～64歳	4.5%	4.5%	55～59歳→60～64歳	2.3%	2.3%
60～64歳→65～69歳	3.5%	3.5%	60～64歳→65～69歳	2.7%	2.7%
65～69歳→70～74歳	2.5%	2.5%	65～69歳→70～74歳	0.4%	0.4%
70～74歳→75～79歳	3.4%	3.4%	70～74歳→75～79歳	4.4%	4.4%
75～79歳→80～84歳	5.2%	5.2%	75～79歳→80～84歳	2.4%	2.4%
80～84歳→85～89歳	-3.0%	-3.0%	80～84歳→85～89歳	6.7%	6.7%
85歳～→90歳～	2.0%	2.0%	85歳～→90歳～	3.8%	3.8%

※プラスが転入超過、マイナス（赤字）が転出超過を表します。

(2) 独自推計の実施

合計特殊出生率（中位・高位①・高位②）×移動率（中位・高位）の独自推計6パターンの結果が以下のものとなっています。

独自推計において、人口増減率をみると、移動率「高位」を使っているものが人口減少率が抑制されており、移動率が人口動態に大きな影響を与えています。



<人口>

パターン	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
中位(移動)・中位(出生)	35,626	36,543	37,037	37,222	37,203	36,951	36,408	35,649	34,647	33,325	31,762
中位(移動)・高位①(出生)	35,626	36,789	37,526	37,948	38,459	38,754	39,055	39,231	39,164	38,830	38,350
中位(移動)・高位②(出生)	35,626	36,789	37,526	37,948	38,192	38,196	37,919	37,469	36,799	35,824	34,640
高位(移動)・中位(出生)	35,626	36,543	38,823	40,880	41,076	41,069	40,758	40,236	39,444	38,272	36,795
高位(移動)・高位①(出生)	35,626	36,789	39,353	41,740	42,555	43,180	43,840	44,406	44,711	44,699	44,489
高位(移動)・高位②(出生)	35,626	36,789	39,353	41,740	42,244	42,532	42,528	42,367	41,966	41,202	40,170

※網掛けは人口のピーク

<増減割合>

パターン	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
中位(移動)・中位(出生)	-	2.6%	4.0%	4.5%	4.4%	3.7%	2.2%	0.1%	-2.7%	-6.5%	-10.8%
中位(移動)・高位①(出生)	-	3.3%	5.3%	6.5%	8.0%	8.8%	9.6%	10.1%	9.9%	9.0%	7.6%
中位(移動)・高位②(出生)	-	3.3%	5.3%	6.5%	7.2%	7.2%	6.4%	5.2%	3.3%	0.6%	-2.8%
高位(移動)・中位(出生)	-	2.6%	9.0%	14.7%	15.3%	15.3%	14.4%	12.9%	10.7%	7.4%	3.3%
高位(移動)・高位①(出生)	-	3.3%	10.5%	17.2%	19.4%	21.2%	23.1%	24.6%	25.5%	25.5%	24.9%
高位(移動)・高位②(出生)	-	3.3%	10.5%	17.2%	18.6%	19.4%	19.4%	18.9%	17.8%	15.7%	12.8%

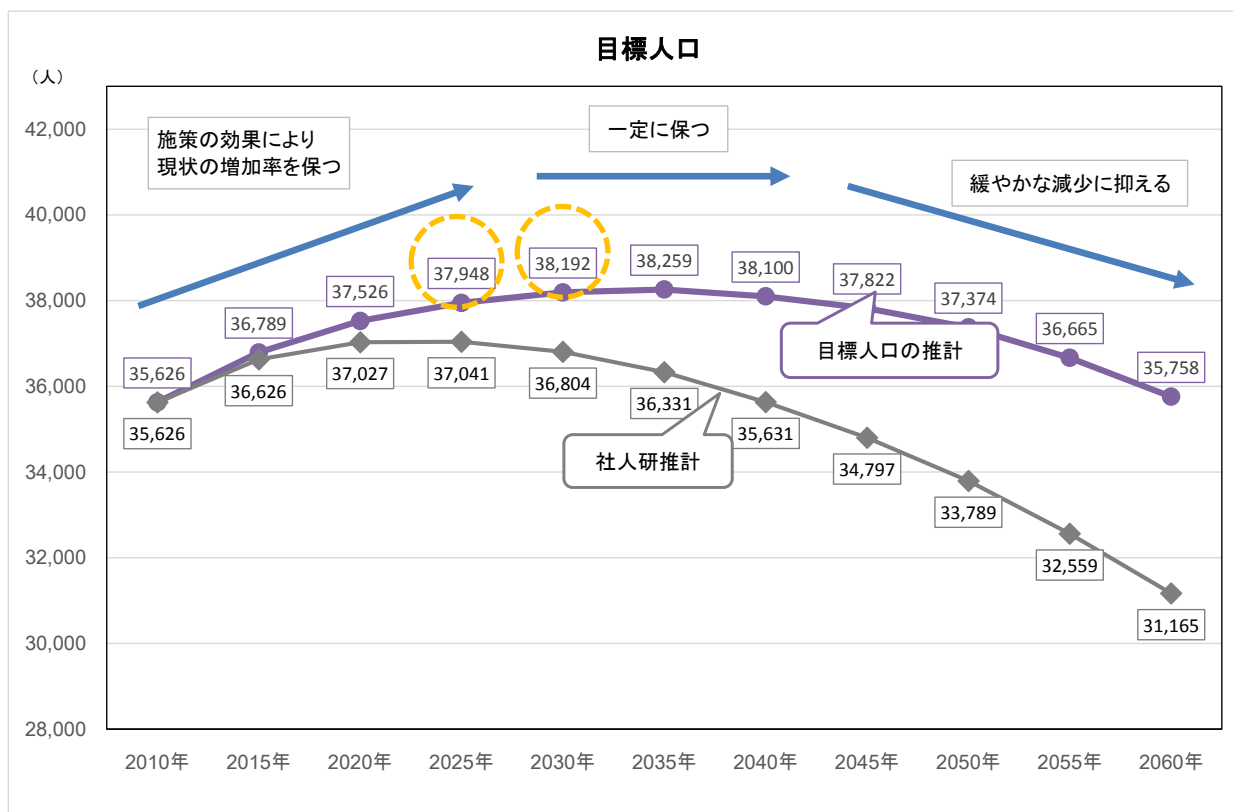
4 精華町の将来展望

(1) 本町人口の将来展望

先に示した人口推計のパターンのうち、第5次精華町総合計画において目指している人口規模や今後の施策展開およびまちづくりの目標を総合的に勘案し、以下の目標人口を設定します。

目標人口の考え方

- ・目標人口：精華町第5次総合計画における将来人口4万人を上限として、現時点における住宅開発の状況等を勘案したうえでの推計を行い、2022年（総合計画最終年）に3.8万人程度を目指す。また、2030年～2040年は3.8万人程度を維持し、2045年以降は緩やかな減少に抑える。
- ※前ページの人口シミュレーション「中位（移動）・高位②（出生）」をベースに、2035年以降、出生率が国の算定した希望出生率（1.8）に徐々に近づくとし、推計を行った。
- ・若者の流出を抑制するとともにUターンを促す。
- ・宅地開発による転入者の増加を図り続けることは困難であることから、出生率を高める施策を随時実施していく。



【目標人口の推計結果に基づく年齢3区分別人口割合】

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
0～14歳割合	17.9%	16.3%	14.8%	14.0%	13.3%	13.3%	13.8%	14.3%	14.4%	14.5%	14.5%
15～64歳割合	65.1%	62.2%	60.7%	59.3%	57.5%	54.3%	50.6%	49.3%	49.5%	50.3%	51.3%
65歳以上割合	16.9%	21.5%	24.5%	26.6%	29.2%	32.4%	35.6%	36.4%	36.1%	35.2%	34.2%
75歳以上割合	7.0%	8.7%	11.3%	14.9%	16.9%	17.8%	19.2%	21.6%	24.3%	24.5%	23.2%

【目標人口の推計結果】

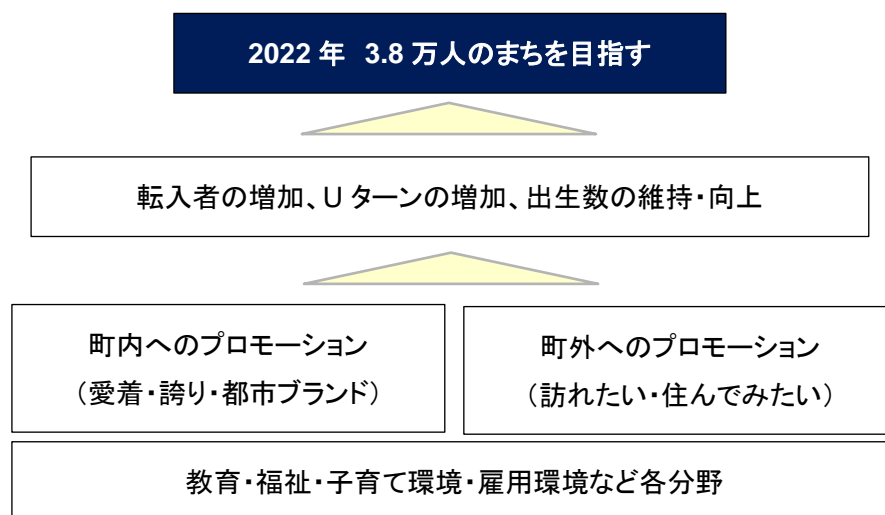
合計	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総数	35,626	36,789	37,526	37,948	38,192	38,259	38,100	37,822	37,374	36,665	35,758
0～4歳	1,796	1,804	1,656	1,566	1,580	1,676	1,714	1,717	1,663	1,631	1,621
5～9歳	2,194	1,923	1,931	1,773	1,676	1,692	1,795	1,835	1,838	1,781	1,746
10～14歳	2,390	2,260	1,982	1,990	1,828	1,727	1,744	1,849	1,891	1,895	1,835
15～19歳	2,019	2,382	2,253	1,977	1,984	1,822	1,722	1,739	1,844	1,886	1,889
20～24歳	1,695	1,750	2,067	1,957	1,720	1,724	1,584	1,497	1,511	1,602	1,639
25～29歳	1,656	1,588	1,637	1,936	1,834	1,615	1,617	1,485	1,404	1,417	1,503
30～34歳	2,168	1,796	1,720	1,773	2,097	1,986	1,749	1,752	1,609	1,521	1,535
35～39歳	3,042	2,289	1,896	1,815	1,872	2,214	2,097	1,846	1,849	1,698	1,605
40～44歳	2,934	3,096	2,329	1,930	1,849	1,907	2,256	2,137	1,882	1,885	1,731
45～49歳	2,511	2,971	3,136	2,360	1,956	1,874	1,933	2,287	2,166	1,907	1,910
50～54歳	2,144	2,530	2,995	3,165	2,382	1,976	1,896	1,955	2,313	2,191	1,930
55～59歳	2,304	2,163	2,554	3,026	3,201	2,410	2,000	1,921	1,981	2,344	2,220
60～64歳	2,735	2,325	2,185	2,583	3,063	3,241	2,442	2,027	1,946	2,006	2,374
65～69歳	2,088	2,728	2,323	2,187	2,588	3,072	3,254	2,451	2,035	1,954	2,015
70～74歳	1,461	2,001	2,625	2,241	2,114	2,506	2,980	3,158	2,378	1,975	1,898
75～79歳	1,065	1,371	1,894	2,505	2,145	2,031	2,415	2,874	3,049	2,294	1,908
80～84歳	761	926	1,200	1,676	2,242	1,932	1,841	2,188	2,605	2,767	2,081
85～89歳	411	567	705	915	1,305	1,784	1,551	1,479	1,758	2,096	2,237
90歳以上	252	320	437	574	757	1,068	1,511	1,625	1,652	1,814	2,080

男性	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総数	17,078	17,444	17,548	17,460	17,290	17,064	16,785	16,472	16,070	15,552	14,984
0～4歳	908	926	850	803	811	860	879	881	853	837	832
5～9歳	1,119	958	976	897	847	856	907	928	929	900	883
10～14歳	1,213	1,140	975	994	913	863	871	924	945	947	917
15～19歳	1,020	1,185	1,114	953	972	892	844	852	903	924	925
20～24歳	775	818	950	893	764	779	716	677	683	724	741
25～29歳	744	655	691	804	755	646	659	605	572	578	613
30～34歳	1,031	822	724	764	888	834	714	728	669	632	638
35～39歳	1,422	1,095	873	769	812	944	887	759	774	711	672
40～44歳	1,413	1,435	1,106	881	777	820	953	896	767	782	718
45～49歳	1,230	1,434	1,456	1,123	895	789	833	969	910	779	795
50～54歳	1,029	1,216	1,418	1,442	1,112	887	782	826	960	902	772
55～59歳	1,106	1,025	1,213	1,417	1,441	1,112	888	783	826	961	903
60～64歳	1,293	1,118	1,039	1,230	1,438	1,464	1,131	903	796	840	977
65～69歳	1,059	1,283	1,112	1,035	1,228	1,437	1,465	1,131	903	796	841
70～74歳	765	1,005	1,222	1,063	992	1,180	1,384	1,411	1,090	870	767
75～79歳	473	686	909	1,114	974	913	1,091	1,279	1,304	1,007	804
80～84歳	317	388	572	767	949	838	792	946	1,110	1,131	874
85～89歳	110	195	246	371	508	640	574	542	648	760	775
90歳以上	51	61	101	141	214	309	415	432	426	469	537

女性	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総数	18,548	19,346	19,978	20,488	20,902	21,194	21,315	21,350	21,304	21,113	20,774
0～4歳	888	878	806	762	769	816	834	836	810	794	789
5～9歳	1,075	966	955	877	829	837	887	907	909	880	863
10～14歳	1,177	1,121	1,007	996	914	864	873	925	946	948	918
15～19歳	999	1,197	1,140	1,024	1,012	930	879	887	941	962	964
20～24歳	920	932	1,117	1,064	955	945	868	820	828	878	898
25～29歳	912	933	945	1,132	1,078	969	958	880	832	840	890
30～34歳	1,137	974	996	1,010	1,209	1,152	1,035	1,023	940	888	897
35～39歳	1,620	1,193	1,022	1,046	1,060	1,270	1,210	1,087	1,075	987	933
40～44歳	1,521	1,661	1,224	1,049	1,073	1,087	1,303	1,241	1,115	1,103	1,013
45～49歳	1,281	1,537	1,679	1,237	1,061	1,085	1,100	1,318	1,256	1,128	1,115
50～54歳	1,115	1,314	1,577	1,723	1,270	1,089	1,114	1,130	1,353	1,289	1,158
55～59歳	1,198	1,137	1,341	1,610	1,760	1,298	1,113	1,138	1,154	1,383	1,317
60～64歳	1,442	1,207	1,147	1,352	1,625	1,777	1,311	1,124	1,150	1,166	1,397
65～69歳	1,029	1,446	1,211	1,152	1,360	1,635	1,789	1,320	1,132	1,158	1,174
70～74歳	696	996	1,403	1,178	1,122	1,326	1,596	1,747	1,288	1,105	1,130
75～79歳	592	685	985	1,391	1,171	1,118	1,324	1,594	1,744	1,287	1,103
80～84歳	444	538	628	909	1,292	1,093	1,048	1,242	1,495	1,636	1,207
85～89歳	301	372	459	544	797	1,144	977	937	1,110	1,336	1,462
90歳以上	201	259	336	433	544	759	1,096	1,193	1,226	1,345	1,543

(2) 目標人口達成のためのまちづくりの方向性

先に示した目標人口の達成のため、精華町内に住んでいる人が「住んで良かったまち」と感じられること、精華町外の人が「訪れたい、訪れて良かった、住んでみたいまち」と感じられること目指し、「シティプロモーション」に力を入れていきます。



また、目標人口を達成するため、シティプロモーションの5つの柱である「誘客拡大に向けた情報発信の強化」「地域に誇りを持つ教育の推進」「ふるさとの魅力づくり」「地元産品・観光のブランド力強化」「健康・スポーツによる地域活性化」を基本目標として掲げて取り組んでいきます。

目標人口達成のため具体的な取り組み	
<基本目標1> 誘客拡大に向けた 情報発信の強化	1-1 インターネットメディアなどを活用した「学研都市精華町」のPR
	1-2 けいはんな学研都市を起点とした多様な文化の創造・発信
	1-3 ICTや広報キャラクターを活用した人にやさしい情報の発信
<基本目標2> 地域に誇りを持つ 教育の推進	2-1 「科学のまちの子どもたち」プロジェクトなどの推進
	2-2 地域公共人材の育成
<基本目標3> ふるさとの魅力づくり	3-1 地域資源の再発見と集積・整理
	3-2 豊かな自然環境を活かした交流人口の拡大
	3-3 京都府や関係機関等との連携によるスマートシティ構想の推進
	3-4 京都府との連携による「みやこ構想」の推進
<基本目標4> 地元産品・観光の ブランド力強化	4-1 「京都・精華町」の歴史や文化を活かした観光の新興
	4-2 地域資源の観光コンテンツ化
	4-3 地元産品の販売力向上と販路拡大
	4-4 新たな特産品などの開発・販売
	4-5 「お茶の京都」構想の推進
<基本目標5> 健康・スポーツによる 地域活性化	5-1 ツアー・オブ・ジャパン京都ステージを契機とした交流人口の拡大
	5-2 「せいか365プロジェクト」による町全体での健康づくり機運の向上
	5-3 まち全体を活用した「ヘルスツーリズム」の推進

以上